

佐渡市立高千小学校

令和6年度学校だより

令和6年7月3日 No.4

# しおかせ

## 小さな行動が大きな波及効果に

校長 後藤 洋子

七月、文月。梅雨を迎えて雨の日も多くなってきましたが、正門に並ぶ色とりどりの花は雨にぬれて一層鮮やかさを放っています。夏休みまであと2週間余り。1学期の学習のまとめをしっかり積み重ねてまいります。



当校の校門前や玄関アプローチは、きれいな花が咲いています。登校後、4月から6年生が毎朝水やりをしてくれます。地域の方から「きれいな花を見ながらウォーキングできるから気分がいいね。水やりは当番の子どもがしているの?」と聞かれました。「いいえ。6年生がボランティアとして水やりをしています。お陰で毎朝、カラフルな花と一緒に子どもたちを迎えることができます。」と答えました。6年生は「花が元気に育つように」という思いで水やりをしているのかもしれませんが、その行動が登下校する児童生徒、地域の方にまでよい結果として広がっていました。一つの小さな行動が大きな変化に波及していると感じました。波及とは、水面に生じた波紋が徐々に広がっていくようなイメージです。学校生活では、いろいろなところで波及効果が見られます。

例えば玄関前の一角(2畳ほどの畳スペース)コーナー。→  
4月当初、活用は見られませんでした。現在は、**生き物観察部屋**になったり、最近では「たかちっ子まつり」のブースとして活用したりしました。きっかけは、2年生の「生き物を育てたい」でした。全校の人からえさの協力をしてもらいたいけれど、伝える勇気がない。困っていると、3年生が「手伝うよ」と手助けし、ランチルームで全校に呼びかけることができました。その後、生き物観察(生き物の脱皮ライブまで観察できました)や、えさやりに立ち寄る子どもたちの姿が見られました。「1階ワークスペース」という付け親は、2年生の児童です。コーナーの仕切りは、庁務員さんに作っていただきました。現在、委員会やイベントのお知らせ掲示板や七夕飾りとして活用しています。



先日、通勤途中に当校の児童に「バス友なのであいさつしたい」と立ち寄ってくださった方がいました。岩谷口方面の3年生と3月まで路線バスで通学している間に「バス友」になったと話されていました。校門前で一緒に立っていると、3年生が「あっ、久しぶり。またね。」と笑顔で手を振っていました。豊かな自然環境の中で育まれた18名の子どもたちの波及効果、まだまだ続きそうです。